BTC NEWS

BTCニュース
2024年(4) No.137

写真提供
公益社団法人 日本馬術連盟

CONTENTS

❶ JRAからのお知らせ 1
JRAにおける馬事振興の取組みについて

❷ やさしい育成技術① 4
JRAのリトレーニングプログラムとその応用④

❸ やさしい育成技術② 8
BTC講演会～女性ホースマンの活躍への期待～

❹ 馬に見られる病気 10
軽種馬生産に影響を及ぼす細菌感染症
③馬のローソニア感染症

❺ 競馬の箱馬車 14
特別展「JRA70周年記念 タイムスリップ to 1954」

❻ 研修生のページ① 16
浅利英明調教師（BTC第22期修了生）から
現役研修生に向けての講話レポート

❼ 研修生のページ② 18
研修生の課外研修や休日の過ごし方

あとがき 20

公益財団法人
軽種馬育成調教センター
Bloodhorse Training Center

物産アニマルヘルス

動物用医薬品

馬用消化管運動機能改善剤
指定医薬品　使用基準

プロナミド®E散1%

（モサプリドクエン酸塩水和物）

馬の便秘疝における
消化管運動機能低下の改善に
優れた効果を発揮!

PRONAMID® E Powder 1%

※詳細は添付文書をご参照ください。

製造販売元
物産アニマルヘルス株式会社
大阪市中央区本町2-5-7
https://www.bussan-ah.com

〔2023年6月〕

FUJIFILM
Value from Innovation

サイエンスに裏付けられた腸内環境サポートサプリ

馬用サプリメント
Pure Salacia
ピュア サラシア

特 長

1. 天然植物サラシアに含まれるサラシノールが、馬の腸内の乳酸菌比率を増加させる ※1
2. エネルギーの吸収に適した腸内環境に整える ※1 ※2

※1 2016年 日本ウマ科学会にて発表
※2 Jumpertz R et al., Am J Clin Nutr. 94(1):58-65. (2011)

給餌方法

成　馬	仔　馬
(500kg換算)：8～16 g/日	(100kg毎)：1.6～3.2 g/日
(かさ目安30～60 mL/日)	(かさ目安6～12 mL/日)

●食餌回数に分けて飼料に混合して与えてください。　●状態に応じて適宜、給餌量を調整してください。
●水に溶かしてシリンジで直接与えることも可能です。

■名　　称　馬用サプリメント　ピュア サラシア
■内 容 量　480 g、240 g

注意事項　馬以外に使用しないでください。
※本製品は（財）競走馬理化学研究所の薬物検査にて問題ないことを確認しています。

□本製品についてのお問い合わせは

株式会社 富士フイルムヘルスケア ラボラトリー　サプリメントグループ マテリアル事業チーム
〒164-0012　東京都中野区本町2-46-1　中野坂上サンブライトツインビル14階
TEL：03-6300-6419

詳しい情報はこちら▶

JRAにおける馬事振興の取組みについて

日本中央競馬会　馬事部馬事振興室　室長　勝木　亮司

はじめに

本年のＢＴＣニュース NO.134において、「競馬産業におけるＪＲＡ馬事部の取組み」と題して、松田芳和馬事部長より「競馬産業における人材不足への取組み」および「引退競走馬に関する諸課題への取組み」をご紹介させていただきましたが、今回はＪＲＡ馬事部を中心に進めている「乗馬・馬事の普及」、「馬術の振興」および「引退競走馬に関する諸課題への取組み」の最近のトピックスについて紹介いたします。

乗馬・馬事の普及

ＪＲＡでは事業所に繋養している乗馬を活用して、乗馬や馬事の普及を行っています。ここでは、主なものをご紹介します。

乗馬スポーツ少年団

乗馬スポーツ少年団については、小学５年生から高校３年生までを対象に、15事業所（全国10競馬場、美浦・栗東トレセン、日高・宮崎育成牧場、馬事公苑）の乗馬施設で学校がお休みの週末と春夏冬休みに約650名が活動しています。

少年団活動の内容は、乗馬の練習だけではなく、騎乗前の馬装や騎乗後の手入れ、馬房掃除や飼葉づくりといった厩舎作業について、ＪＲＡ職員の指導のもと、馬の取扱い全般について学んでいきます。卒団後は、馬術部のある高校・大学への進学や馬産業に就業する団員も少なくありません。

ＪＲＡジュニアユース

少年団活動から一歩進んで、騎手を目指す子供たちに対しての取組みが、ＪＲＡジュニアユース活動です。試験により選抜された子供たちが、週末だけではなく、平日の放課後も乗馬練習を中心とした活動を行います。現在20名強が在籍しており、出身者からは騎手を多数輩出しています。

高校・大学馬術部への活動支援

ＪＲＡでは事業所近隣の高校・大学に対し、乗馬や施設の提供およびＪＲＡ職員による乗馬指導といった活動支援を行っています。現在、高校馬術部11校と大学馬術部２校がＪＲＡの乗馬施設を使用して平日の放課後を中心に活動を行っています。

また、自馬を繋養する高校・大学馬術部に対して、昨今のコロナ禍による収入減や飼養費をはじめとした諸物価の高騰による影響を緩和するため、これまで行ってきた支援とは別枠で馬の繋養費を主な対象とした助成を始めています。高校・大学馬術部を統括する（一社）全日本高等学校馬術連盟および（一社）全日本学生馬術連盟に対しても、全国大会の運営費やその活動に対するサポートを始めたところです。高校・大学馬術部については、馬産業の人材確保ならびに引退競走馬の活躍の場の確保といった観点から重要な存在であり、引き続き高校・大学馬術部の活動が保持できるよう取り組んでまいります。

初心者乗馬クラス

平日の日中は初心者乗馬クラスとして、一般の方を対象とした乗馬教室を行っています。未経験者から３年間、約350名を対象に乗馬を学んでいただき、修了後は民間の乗馬クラブで続けていただくことで乗馬のすそ野拡大を図っています。

なお、今年からこの枠組みの中で、馬産業への就業希望者に対し、乗馬・馬取扱いの基礎的な部分を学ぶことを目的とした「馬の世界で働きたい人のための初心者乗馬講座（ビギナーコース）」を東京競馬場で試行しています。

幼少期からの馬事普及

ＪＲＡでは乗馬を始める一歩手前から馬に親しんでもらえ

るような取組みも行っています。

そのひとつが小学校出張授業で、文部科学省の推進する「総合的な学習の時間」の教材として、馬を題材とした授業をＪＲＡ職員が行います。具体的には誘導馬やポニーを小学校に派遣して、馬の演技披露や馬とのふれあいなどを行うとともに座学で馬のことを知っていただくものです。

小学校出張授業以外にも、事業所やウインズ近隣の小学校や幼稚園等にポニーを派遣して、馬とのふれあいも行っています。

また、ＪＲＡだけでは派遣できるエリアが限られてしまうため、（公社）全国乗馬倶楽部振興協会と連携して、乗馬クラブによる学校などへの訪問や受入れを実施しています。

小学校出張授業における校庭での馬の演技披露

馬事イベント（競馬開催日の取組み）

競馬場においては、競馬開催時、パークウインズ時（場外発売時）を問わず、来場者に対して、体験乗馬や馬車試乗会、馬とのふれあいやホースショーといった馬を身近に感じていただけるようなイベントを実施しています。

競馬開催日の馬事イベント（体験乗馬）

馬術の振興

ＪＲＡでは、（公社）日本馬術連盟と連携して、馬術の強化・普及に取り組んできましたが、東京2020オリンピック・パラリンピックの自国開催を馬術振興の好機と考え、日本での開催決定以降、より一層の馬術振興に取り組んできました。

馬術の競技力強化

東京2020オリンピックで好成績を残すことによって、馬術の社会的認知度と馬術を志す者の増加を図るため、（公社）日本馬術連盟を通じて馬術の競技力強化事業を実施してきました。東京2020オリンピックでは、メダル獲得はならなかったものの、総合馬術では、ＪＲＡの戸本一真職員がメダルまであと一歩の４位入賞、障害馬術では日本代表３名が決勝ラウンドに進み、福島大輔選手が決勝のジャンプオフに残り６位入賞の成績を収め、いずれも1932年ロス五輪以来の個人入賞を成し遂げました。同じく強化を図ってきたパラリンピックにおいても、競馬産業出身者から、元ＪＲＡ調教助手の宮路満英選手と元ＪＲＡ騎手の高嶋活士選手が出場し、宮路選手が7位入賞の成績を収めました。東京2020後も本年のパリオリンピック・パラリンピックに向けた強化策を継続し、オリンピック総合馬術と障害馬術は団体出場枠を、パラリンピックでは個人出場枠を2枠獲得、オリンピックの結果は周知のとおり、総合馬術では団体銅メダルと92年ぶりのメダル獲得を達成することができました。また、メダル獲得の陰に隠れてはおりますが、総合馬術個人でもJRA の戸本一真職員が5位、大岩義明選手が7位入賞と好成績を収めております。

今後は、馬術に注目が集まっているこの機会を逃さず、馬術の振興・普及活動に取り組んでまいります。

馬事公苑のリニューアル

東京2020オリンピック・パラリンピックでの馬術競技会場として、生まれ変わった馬事公苑は、我が国における「馬術の殿堂」として国内の主要大会はじめ、高校・大学馬術連盟主催の各種馬術大会や馬に関するイベントを開催するほか、オリンピック・パラリンピックの経験を活かし、国際的な大会も開催可能な馬術競技場として、2023年11月に再開苑しました。オープニングイベントには３日間で６万５千人が来苑されたように、都心に位置する好立地を活かして、馬術の振興に努めてまいります。

また、2026年には愛知・名古屋アジア競技大会の馬術競技会場として使用されることが決定しており、無観客開催となった東京2020大会に代わって馬術振興・認知度向上の機会として活用してまいります。

５月の連休中のホースショーでにぎわう馬事公苑

引退競走馬に関する諸課題への取組み

動物の福祉・愛護については、国内外において年々関心が高まっており、近年、家畜の飼育環境を中心とした福祉について、欧米が主導して国際的なルール作りが進み、国内ではその対応に追われています。馬においても、ばんえい競馬での対応や神事における馬の取扱いがニュースになる等、アニマルウェルフェアに関してさまざまな議論が起きている現状があります。

また、2022年の競馬法改正時には、国に対して、引退競走馬の取組みへの支援の拡充と取組内容の充実が図られるよう競馬関係者に指導することが附帯決議されたことは記憶に新しいところです。

引退競走馬の養老牧場（ホーストラスト（鹿児島））

引退競走馬に関する検討委員会

競馬産業としての責任および前述の動物の福祉・愛護の動きを競馬産業への逆風としないため、引退競走馬に関する諸課題への対応については、中央競馬（馬主・調教師・騎手・ＪＲＡ）、地方競馬（主催者・ＮＡＲ）、生産者、農林水産省をメンバーとする「引退競走馬に関する検討委員会」を2017年に設立し、日本における方向性や方針策定等を協議・検証し、「引退競走馬のセカンドキャリア促進」と「高齢・引退馬対策」（養老・余生）を２本柱として、これまで進めてきたところです。

引退競走馬に関する専門的団体（TAW）の設立

本年、これらの取組みを安定的・継続的に進めていくため、引退競走馬に関する課題に専門的に取り組む団体（一財）Thoroughbred Aftercare and Welfare（略称ＴＡＷ ティー・エー・ダブリュー）が設立されました。東京に本部を置くこの団体では、助成、調査・情報収集、情報発信といった事業を実施していきますが、宇都宮事業所においては、乗馬転用を目指す引退直後の競走馬の一時預かり事業も実施していきます。

引退競走馬に関する国際フォーラム

国際的な引退競走馬に関する話し合いの場である「引退競走馬に関する国際フォーラム（ＩＦＡＲ）」に初回から日本（ＪＲＡ・ＮＡＲ）も参加するとともに、ＪＲＡと引退競走馬に関する検討委員会はＩＦＡＲのスポンサーでもあります。参加の目的のひとつには、引退競走馬に関する国際的なルール作りに日本の現状を踏まえて関与していくことがあります。今年のＩＦＡＲの開催地は札幌で、８月の第40回アジア競馬会議（札幌市）の初日に開催、日本からは、引退競走馬に関するＪＲＡの取組みを披露する予定です。

おわりに

今回、ＪＲＡの馬事振興の取組みの一部をご紹介させていただきました。

馬産業の人材確保なかでも騎乗者の養成に大きくかかわる乗馬と馬事の普及、馬術の振興、そして引退競走馬に関する諸課題への取組みのいずれもが、大きな永遠の課題であり、同じ馬産業に携わる皆様と連携しながら着実に進めていかなければならないと考えておりますので、今後ともご理解のほどよろしくお願いいたします。

2 やさしい育成技術①

JRAのリトレーニングプログラムとその応用④

一般財団法人　Thoroughbred Aftercare and Welfare（TAW）宇都宮事業所　業務課長　宮田　健二

はじめに

前回はJRAのリトレーニングプログラム（図1）、グラウンドワークの項への働きかけ、鈍化とその応用についての話でした。今回は、Join-Up（ジョインアップ）とその応用などについてご紹介します。

- Level 1　引き馬
- Level 2　横からの働きかけ
- Level 3　前後への働きかけ
- 項（うなじ）への働きかけ
- 鈍化
- Join-Up

★グラウンドワーク

図1．グラウンドワークの6つの働きかけ

ジョインアップ

モンティ・ロバーツ氏による実演で有名になったこの手法は、馬と人が“つながる”こと、人と一緒にいると「安全と快適」を得られると馬に理解させることを目的に行います。ジョインアップを達成した馬は、人（ハンドラー）の横にある“安全で快適な空間（正しい引き馬の位置関係）”を求めて動くため、リードがなくても人について歩くようになります（図2）。

ジョインアップは、放牧地などで新しい馬を迎え入れる群れのリーダーがとる行動に似ています。群れに属さない“ある馬”が群れに加わろうとして近づくと、リーダーは威嚇して遠ざけます。“ある馬”は、群れに近づいては追い払われるという行動を繰り返すうちに、リーダーのほうが自分より上位であることを認識し、服従する意思を示し始めます。“服従する意思”とは、群れに加わる為に群れのヒエラルキー（序列）を守ることを約束し、リーダーに従う気持ちです。リーダーはその意思を確認して初めて、“ある馬”が群れに加わることを許容します。

図2．ジョインアップを達成した馬

調教方法

ジョインアップは、人馬が1対1で対峙するフリーランジング（調馬策や引き綱を使わず、ボディランゲージを用いて馬に働きかける）形式で実施します。直径12～15m程度の円馬場を使えると理想的ですが、放牧地でも隅角に横木などを置いて円形に近づければ実施可能です。追い鞭や棒など、ランジングの際後方から馬にプレッシャーを与える道具を用意し、馬の肢には適宜プロテクターを装着します。最初は、グラウンドワークのLevel 1から鈍化までの各項目を復習し、人馬の関係性の確認作業から始めます。その後、馬を円馬場の中央に導き、顔や頸をやさしく撫で、人と一緒にいると安全で快適であることを馬に確認させてからフリーランジングを始めます。

フリーランジングでは、ハンドラーの立ち位置の調整がスピードのコントロールにつながります。つまり、立ち位置を馬の後駆方向に移動させると加速のプレッシャーとなり（図3）、逆に馬の前駆方向に移動させると減速のプレッシャーとなります。

減速の位置からさらに馬の前方、つまり馬の進行方向に移動すると馬は停止したり、反転したりします（図4）。

立ち位置の調整によってプレッシャーの方向を変えて馬の動くスピードや方向をコントロールする訳ですが、全てのプレッシャーはハンドラーから馬を遠ざけるものです。ここが

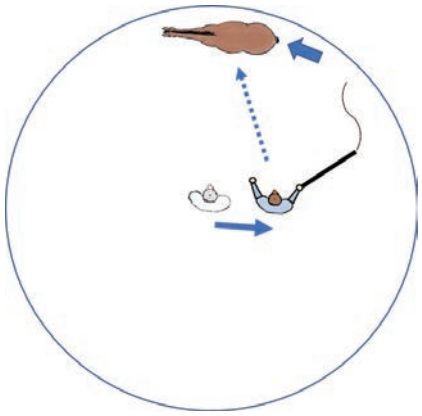
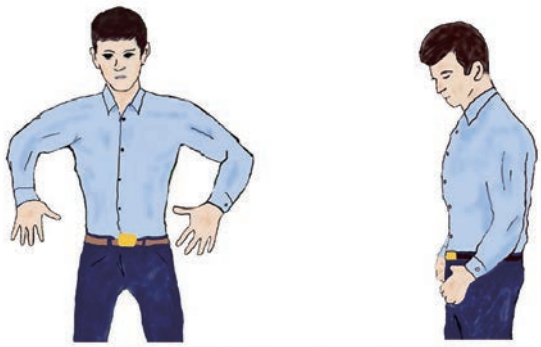


図３．加速時のハンドラーの立ち位置



左：心身を大きく見せるイメージ
右：心身を小さく見せるイメージ

図５．心身のイメージ

図４．馬の進行方向からのプレッシャー

図６．視線を落とし、やさしく馬を誘う

群れのリーダーの行動との共通点です。様々な角度から遠ざけられ（追い払われ）続けることによって、馬は必死に考え、様々なサインを送り始めます。最初は、内側の耳をハンドラーに向けたり、両方の目でハンドラーを観察したりします。さらに運動を継続すると、チューイングやリッピングが見られるようになり、最後は頭頸が下がります。これらの行動から、ハンドラーを意識する（耳の動き）→考える（チューイング・リッピング）→ハンドラー（リーダー）に従う意思を示す（頭頸を下げる）という馬の心の動きを理解できます。

頭頸を下げる行動は、ハンドラーに従う気持ちを表現すると同時に、プレッシャーの解除を期待する行動でもあります。まさにこれがジョインアップのタイミングです。ハンドラーは馬から視線を外してプレッシャーを解除し、心身を小さく見せるイメージ（図5）で静かに馬の反応を待ちます。

突然プレッシャーを解除されると、馬は迷います。しばらく運動をつづけながらハンドラーを観察します。立ち止まってハンドラーのほうを振り返ったり、少し近づいて立ち止まるのは良いリアクションです。立ち止まった馬に少しだけ近寄ったり、離れたりして馬をやさしく誘います。後ろ向きに後ずさる感じで馬に近寄ると（図6）馬に与えるプレッシャーを少しでも減らせると思います。

見えないロープで馬をやさしく引っ張るようなイメージで馬との距離を徐々に縮め、正しい引き馬の位置関係（ハンドラーの横）にたどり着いたら馬を誉めます。プレッシャーを解除されても運動をやめなかったり、ハンドラーから意識をそらしてしまう場合は仕切り直し、フリーランジングを再開します。馬を遠ざけたり（追い払う）、誘って近寄ったら誉めたりを繰り返すと、馬はハンドラーの横がプレッシャーを受けない“安全で快適な空間”であることを理解します。

ジョインアップは、馬がフリーな状態で実施するためハンドラーの意図が伝わり難く、馬が混乱してしまうこともある作業です。プレッシャーを解除されるとハンドラーを見て立ち止まり、何をすればよいのか分からず困っている馬を良く見かけます。多分、ハンドラーに近寄ることを警戒しているのだと思います。様々な方向からプレッシャーを受け続け、“離れろ”と要求されたすぐ後に“おいで”と要求される訳ですから、馬が混乱するのも無理はありません。このような場合は、“ハンドラーが心身を小さく見せているときは近寄っても良い”ことを理解させる必要があります。我々はトレーニング以外のタイミングで、“人に近寄るきっかけ”を馬に与えます。馬が人に近寄ろうとするタイミングで心身を小さく見せるイメージの態勢をとり、馬が近寄ってきたら褒めることを繰

り返します。文字にすると難解ですが、実際は放牧地で馬に背を向けて心身を小さく見せるイメージの態勢をとり、馬が近寄ってきたら誉めるだけです。長時間放牧すると、馬は飽きて馬房に帰りたがり、近くを通った人などに近づいてきたりします。『早く馬房に入れてください』とでも訴えているような表情を浮かべる馬を見たことがある人は多いと思います。このように、馬が人に近寄りたいと考えているであろうタイミングで馬を受け入れ、馬の警戒心をといてあげます。

トレーニングの順番を組み替える工夫も有効です。ジョインアップのトレーニングの順序として、グラウンドワークの後にフリーランジングを始める方法を紹介しましたが、フリーランジングの直前にもう一度 Level 1を実施し、正しい引馬の位置関係を馬に印象付けてからフリーランジングを始めると上手くいくことがあります。

馬の理解が進まないため、トレーニング時間が長くなりすぎている場合も馬は近寄って来ません。馬が集中できる時間は長くはありません。上手くいかない時は素直にあきらめ、グラウンドワークの他の項目を実施して馬を誉め、人馬の関係性を修復してからトレーニングを終了します。同様のトレーニングを根気強く続けていけば、必ず馬が応えてくれると思います。

ジョインアップが達成できたと感じたら、確認作業を行います。馬にリードを付けずに、正しい引き馬の位置関係を保ちながら前後左右に歩ければ合格です。左へ移動する際は少しだけゆっくり、馬を呼び込む気持ちで待ってあげましょう。右へ移動する場合は顔周辺に少しだけプレッシャーを与え、ハンドラーが右へ進みたいという意思をやさしく、分かり易く伝えます。前進や後退はグラウンドワークの Level 1と一緒です。馬がハンドラーの横の“安心で快適な空間”を求め、ハンドラーのパーソナルスペースを尊重することを理解していれば、必ず上手くいきます。そして、この時ハンドラーにも馬と“つながった”実感が沸くと思います。

トレーニングの応用

ジョインアップの応用は、人馬の良好な関係性の維持です。問題が発生し、馬とのコミュニケーションが上手くいかなくなったり、馬が集中してくれない時、ジョインアップを実施してみてください。ジョインアップを取り入れることで、馬がリフレッシュするのかもしれませんが、直前までできなかったことが、驚くほど上手にできるようになることがあります。

読者の皆様の中には、ジョインアップを達成しなくても、確認作業と同じ行動（リードを付けなくても人馬が一緒に動ける）ができる人馬を見た経験がある方は多いと思います。私にもそんな経験があります。私はある乗馬クラブのマネージャーからリードを付けない引き馬を見せてもらいました。特別なトレーニングを積んだわけではなく、気づいたらいつの間にかできるようになっていたそうです。人馬が共に過ごす中で、人と一緒にいることが「安全と快適」につながることを馬が理解したものと思われます。このような関係性を構築する手法はジョインアップだけでなく、多くのアプローチ方法があると思います。人馬の位置関係に注意しながら丁寧に引き馬するだけでも馬との良好な関係性は構築できると思います。大切なのは人と馬との信頼関係だと思います。馬が信頼してくれているという自信があれば、難しい問題に遭遇しても焦らず、根気強く取り組めると思います。

問題行動への対処

“咬む”、“蹴る”などの問題行動には、必ず原因があります。人馬の適切な距離を保てていない、若しくは人のスペースに侵入した馬を放置してしまうことは、問題行動の原因のひとつだと思います。人と接する際、馬はよく人との関係性を確認します。少しだけ体を寄せてみたり、人のほうを向いて匂いを嗅ぐなど、親和的なしぐさと感じるものであっても、放っておくと徐々にエスカレートする場合は注意が必要です。馬が人のスペースに侵入し、その反応を観察しているものと思われます。スペースへの侵入を許される、つまりは人よりも馬が序列上位と判断したら、人に従う必要はありません。顔の周りで人が邪魔だと感じたら、咬んだり威嚇したりして人を追い払うでしょう。腹帯を締められる違和感を素直に“蹴る”ことで表現するでしょう。さらに、洗い場で後躯を寄せて人のスペースに侵入し、人を追い出そうとするかもしれません。全ての問題が解決できる訳ではありませんが、馬に接する際、常に“馬との距離”を意識してプレッシャーの on と off を繰り返すと、人馬の序列を繰り返し確認することになるため、以前より格段に扱いやすい馬になると思います。

最後に

ＪＲＡのリトレーニングプログラムとその応用について4話にわたり紹介させていただきました。今回が最後となります。最後までお付き合いいただき、ありがとうございました。

ミルクから生まれたサプリメント

馬用サプリメント
BFMP®

骨の健康維持をサポート！

ミルクに含まれる微量のタンパク質BFMP®(Basic Fraction of Milk Protein)を配合しています。
このサプリメント10gにBFMP®が1,000mg配合されています。
1日1頭あたり10gをめやすに、飼料にふりかけるか、水に溶かして給与してください。

馬用サプリメント
スノービルダー®

トレーニング後の栄養補給に！

ミルクのホエイたん白質は分岐鎖アミノ酸:BCAAが構成アミノ酸の20%以上含まれています。BCAAは筋肉を構成し、激しい運動の際にはエネルギー源になります。
分子量が小さく、消化吸収に優れたホエイペプチドが主成分です。
調教後に1日1頭あたり30gをめやすに、飼料にふりかけるか、水に溶かして給与してください。

●北海道でのご用命は
Hokuchiku 株式会社ホクチク
SINCE 1968
競走馬飼料・資材のパイオニア【本社】TEL:0146-28-1011

●都府県でのご用命は
JRAファシリティーズ株式会社
【美浦事業所】TEL:029-885-2161【栗東事業所】TEL:077-558-0319

●製造元
雪印種苗株式会社
https://www.snowseed.co.jp/

Thoroughbred Breeders Club

大切な愛馬の万一に備えて、安心をあなたに
ブリーダーズクラブの競走馬保険

オプション特約を付けることで、競走馬保険の補償範囲が広がり、皆様の愛馬の様々なリスクをカバーします。

セリで愛馬をご購入の際は、保険加入をぜひご検討ください

育成馬
生後1か月から明け2歳の4月30日までなら
▶ ●腰痿症候群補償特約
●育成馬競走能力喪失補償特約
●水災補償特約
で幼い愛馬の不測の事態に備えます。

競走馬
明け2歳の5月1日からなら
▶ ●競走能力喪失補償特約
●競走能力喪失見舞金補償特約
●手術見舞金特約
●屈腱炎補償特約
で競走中や調教中の思わぬ事故に備えます。

繁殖牝馬
なら
▶ ●異常出産危険補償特約
でお腹の愛馬もしっかり守ります。

※上記のオプション特約は一つの例です。
特約の内容や保険料率につきましては、弊社までお問い合わせください。

保険期間1年の競走馬保険に加入した場合のモデル

	保険金額	保険料
基本条件	500万円	160,000円
	1,000万円	320,000円
	2,000万円	640,000円

※基本条件には「火災・落雷補償特約」「法定伝染病補償特約」を含みます。
※地方競走馬(全国可)、種牡馬の保険もございます。お気軽にご相談ください。

お申込み、お問い合わせは
☎01456(2)2121
ブリーダーズクラブ 遠藤・福島まで

三井住友海上火災保険(株)
損害保険ジャパン日本興亜(株)　代理店
東京海上日動火災保険(株)

(株)サラブレッド・ブリーダーズ・クラブ
〒055-0004　北海道沙流郡日高町富川東3丁目3番1号
TEL 01456(2)2121・2122　FAX 01456(2)2505

3 やさしい育成技術②

BTC講演会～女性ホースマンの活躍への期待～

公益財団法人 軽種馬育成調教センター　業務課　宗元　貴史

2024年６月27日、浦和競馬 平山真希調教師をお招きし、講演会を開催しました（ＢＴＣ利用者振興会・ＢＴＣ共催、ひだか東農業協同組合・ＪＲＡ日高育成牧場後援）。

平山調教師は2000年４月から浦和競馬場で騎手としてデビュー。５月にはドウカンパッサー号で初勝利を挙げ、2011年に調教師試験に合格するまで騎手として活躍しました。調教師としては2011年８月８日にジュピタービギン号で初出走・初勝利し、女性調教師として史上初の快挙を成し遂げ、2024年５月23日浦和競馬第３競走にて管理馬のポップコーン号が優勝、通算500勝を達成しています。

今回の講演は、「女性ホースマンの活躍への期待」をテーマに、事前に参加者から募集した質問を中心にインタビュー形式で自らの経験をもとに講演を行っていただきました。

以下講演内容を一部抜粋してご紹介します。

今回講演していただいた平山真希調教師

Q. 騎手を目指そうと思ったきっかけは？

A. 父が育成牧場の仕事をしており、生まれた時から馬が身近な環境でした。元々馬が好きでしたが、その中で父が調教している姿を見て騎手になりたいと思いました。中央競馬の騎手課程を目指しましたが、体力がまだついておらず断念。その後浦和競馬で働いている方の伝手で浦和競馬の調教師を紹介してもらい、地方競馬の騎手課程を目指しました。馬の仕事をしながら育成馬に乗り、普段の作業で体力をつけていきました。

Q. 女性として体力の限界を感じることはありましたか？

A. 体力の限界というよりは体力が男性に比べ劣る面があり、そこをカバーできるように柔軟性や馬のあたり方などを伸ばす努力をしました。少しでも多く馬と接する時間を増やし、厩舎では積極的に様々な馬に乗せてもらうよう努力して力をつけていきました。

Q. 女性ジョッキーとして困ったことや大変だったことは何かありますか？

A. 当時は男性が圧倒的に多く、汗取りをしている男性が、裸で目の前を通るなどあまり気遣いしてもらえなかったことがあります。今は女性が増えてきたので（当たり前のことですが）、そのようなことはなくなりました（笑）。

Q. 失敗して挫折しそうな時にモチベーションを維持する方法は？

A. 消極的なことを考えるよりもポジティブに考えるように切り替えることが重要だと思います。私は元々人見知りな部分があり、人との繋がりが重要な競馬サークルでは、自分自身の性格を変えなければいけないと思いました。自分からどんどんいろんな人に話しかけて行くうちに親しくなり、自分の悩みなどを相談できる仲間が増えていきました。

会場の様子

Q. 調教師になろうと思ったきっかけは？

A. 馬が好きで騎手として騎乗していましたが、体力の差や減量の恩恵が無くなってから騎乗数が減るなど、今後を考えると仕事としてやっていくのが厳しいと思いました。しかし、馬から離れる選択肢は頭に浮かびませんでした。

厩務員を目指す選択肢もありましたが自分で管理計画

を立てて、レースに出したいと思いました。騎手時代の騎乗経験や厩舎の手伝いなど色々勉強してきたので、それを活かせる仕事がしたいと思ったのがきっかけです。

Q. 調教師になるために努力したことは?

A. 試験に受からなければ開業できないので、とにかく勉強しました。調教師試験を受けた最初の年は自力で勉強して受験しましたが受からず、地方競馬教養センターの講習に参加するなどして、３回目の試験で調教師免許に合格することができました。

調教師になった先のことはあまり考えておらず、調教師になってから騎手として乗っていた時にお世話になっていた馬主さんに、馬を預けていただいて、少しずついい流れで勝ち鞍を積み上げることができ、信頼関係を築いて行くことができました。

Q. 生産牧場や育成牧場に求めていることは?

A. １頭の馬に対してたくさんの方が関わって競馬に出走させています。私はそのバトンをうまく繋げていきたい思いで取り組んでいます。１頭１頭を長く走らせてあげられるようにこれからも努力していきたいです。

また、１歳馬の馴致は、危険がともなう中で、その馬に合わせた取り組み行い厩舎に入れてもらっています。引き続き、牧場では馬に合わせた初期調教をしていただければと思います。

Q. 平山厩舎には幅広い年齢層のスタッフがいますが、スタッフへの接し方など気を付けていることは?

A. スタッフそれぞれに馬に対しての考え方があり、厩舎ではお互いに納得できるようにコミュニケーションをとることを心掛けています。懇親の機会を増やすためにBBQや500勝記念の祝賀会も行いました。

Q. 馬のパフォーマンスを最大限に引き出すために注意していることは?

A. 馬の体調を一番に考えてあげることです。

例えば人間も痛みがあれば走りたくないと思いますが、馬も一緒です。痛みなどを早めに見つけ、対処する。当たり前ですが痛いところがない状態で出走させることを一番に考えています。

普段調教などで乗っているスタッフやジョッキーなどとのコミュニケーションの中でその馬のいつもと違うことを早く気づくことや、普通の状態をしっかり覚えて、ちょっとした異常にいち早く気づける細やかな配慮が必要だと考えています。

Q. どのような人材と一緒に働きたいですか?

A. やはり馬を一番に考えてくれる人です。騎手・厩務員・牧場スタッフは馬がいてこその仕事なので、馬が好きで馬を一番に扱ってくれる人と一緒に働きたいです。

来場者からの多数の質問にもお答えいただきました

Q. 先日調教師として500勝を達成しましたが、好成績を収められた要因は?

A. こんなに早く500勝を挙げられるとは思っていませんでした。多くの人と関わっていく中で理解あるオーナーやスタッフなど、いい人に巡り合えているのが一番だと思います。

Q. 女性ホースマンの心構えや強みは?

A. まず、今後は男性と女性の枠がなくなることが1番いいのかなと思っています。

ホースマンは馬が走って稼いでくれて生活しているので、馬を大事にして取り組んでいくことが大切です。また、女性は馬への当たりの柔らかさがあるので、女性ならではの扱いができる魅力があると思っています。性別に関わらずみんなで協力して馬を作っていく環境づくりが大切だと思っています。

Q. 軽種馬生産地で働くホースマンへエールをお願いします

A. 私たちは生産者や育成者の方、厩務員、騎手、オーナーなど、たくさんの方の想いを乗せて競馬に出走させています。競馬に出走させる上で、皆さんの頑張りがとても大事なことなので感謝しかありません。

これからも牧場で馬を大切にしていただき、競馬場に送り出していただければ幸いです。よろしくお願いします。

最後に

今回は大変お忙しい中、講演をしていただいた平山調教師にこの場をお借りしてお礼申し上げますとともに、今後の益々のご活躍を祈念しております。

軽種馬生産に影響を及ぼす細菌感染症
③馬のローソニア感染症

日本中央競馬会　競走馬総合研究所　微生物研究室　上席研究役　丹羽　秀和

はじめに

シリーズ「軽種馬生産に影響を及ぼす細菌感染症」。3回目となる今回は、これからの時期に発症のピークを迎える馬のローソニア感染症について取り上げます。

馬のローソニア感染症の原因菌

馬のローソニア感染症は、*Lawsonia intracellularis*（以下、Li）という細菌によって引き起こされます。コンマまたは短いらせん状の形（図1）をしたこの菌は、大腸菌や黄色ブドウ球菌といった一般的な病原菌とは異なり、宿主である動物の細胞の中だけで増殖するという特徴を持ちます（このような菌を偏性細胞内寄生菌といいます。）。そのため、培養が非常に難しく、世界でもごく僅かな施設でしか培養することができません。Liは、馬以外にもブタ、ウサギ、キツネ、シカ、ニワトリ、ダチョウなど様々な動物に感染することが報告されていますが、幸いなことにヒトへの感染例は報告されていません。

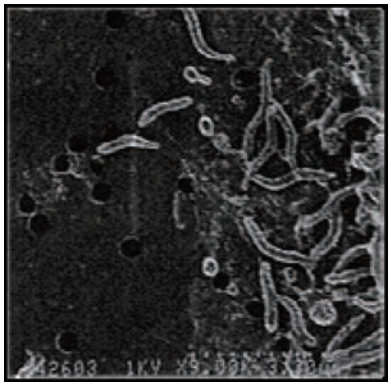


図 1. *Lawsonia intracellularis* の電子顕微鏡写真

発生状況

馬のローソニア感染症は、1982年に初めて米国で確認され、以降、カナダ、オーストラリア、スイス、オランダ、ドイツ、デンマーク、韓国など世界中で発生が報告されています。国内では軽種馬の主要な生産地である日高・胆振地方において2010年頃から本病の発生が確認され始め、その後の調査によってこれらの地域に広く蔓延していることが明らかとなりました（表1）。

表１．日高管内における発生状況 *

年	感染頭数	発生牧場数
2013	31	23
2014	29	21
2015	40	33
2016	44	29
2017	76	49
2018	37	30
2019	13	7
2020	33	29
2021	16	11
2022	9	6
2023	15	11

*生産地疾病等調査研究において感染が確認された頭数

感染

ローソニア感染症は、馬が飼料や水、環境から経口的にLiを摂取することで感染が起こります。米国で行われた感染実験では、Liを投与された2～3週間後に食欲の低下や浮腫、発熱などの症状が起こることが報告されています（図2）。また、この実験では、感染馬は症状が現れる数日前には糞便中にLiを排出することが明らかとなりました。感

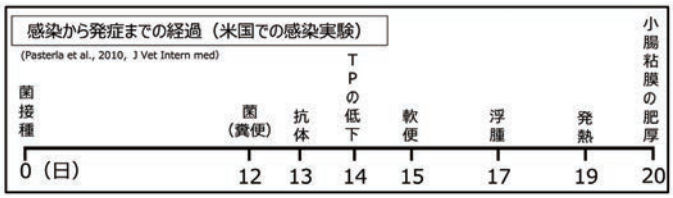


図２. 感染から発症までの経過
Pusterla ら（2011）の報告を引用

染した動物から糞便中に排出されたLiは、環境中では2週間程度生存し、新たな感染源となると考えられています。

Liは野生動物も保菌しており、ＪＲＡ競走馬総合研究所と日高管内の獣医関連団体が共同で実施した調査では、牧場の周辺に生息する野生のネズミ、アライグマ、タヌキからLiが検出されました。これらの動物のLiは、馬から検出されるLiの一部と遺伝学的に近縁であり（図3）、ローソニア感染症は馬から馬だけでなく野生動物からも馬へ感染する可能性があることがわかってきました。一方、国内外の豚から検出されるLiは、馬や野生動物から検出されるLiとは遺伝学的に異なるグループに属していました。このことから、豚と馬を含むその他の動物はそれぞれ異なる感染源から感染していると推測されています。

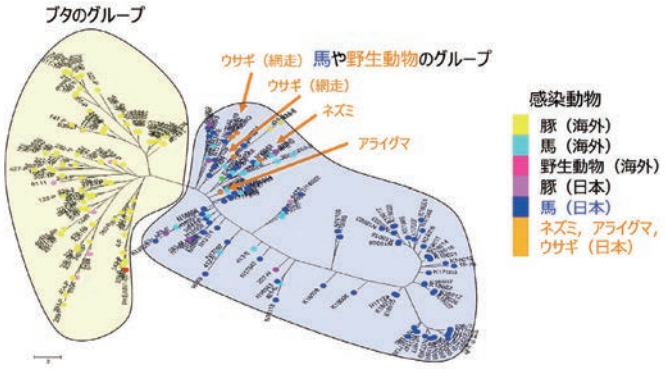


図３．馬と他の動物から検出されるLiの遺伝的関連性

また、発症馬の大部分が4～9ヵ月齢の当歳馬である一方、成馬にはほとんど認められないことや、発生が9月から12月までの間に集中するなど（図4）、発症馬の年齢や季節に偏りがあることが特徴です。

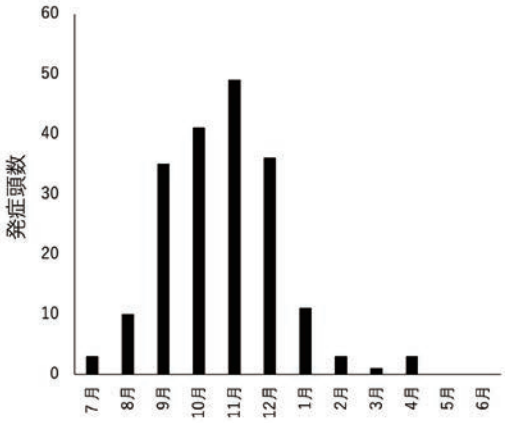


図４．発生例の月別分布（2015～2019年）

症状と診断

感染した子馬の小腸の粘膜上皮細胞は、多数のLiの寄生により異常な増殖（過形成）を起こし、栄養を吸収することができなくなります。その結果、感染子馬は重度に削痩し、発育が遅延します。このような病気の性質から、馬のローソニア感染症は「馬増殖性腸症（EPE）」とも呼ばれています。また、発症馬には特徴的な症状として四肢や下顎、胸や腹の下側など体の末端部の浮腫（図5）もしばしば認められます。その他にも元気消失、発熱、食欲不振、疝痛、下痢など他の消化器感染症でも認められるような症状が現れます。まれに、症状が急激に悪化し、発症翌日から数日後に死亡してしまう例も報告されています。

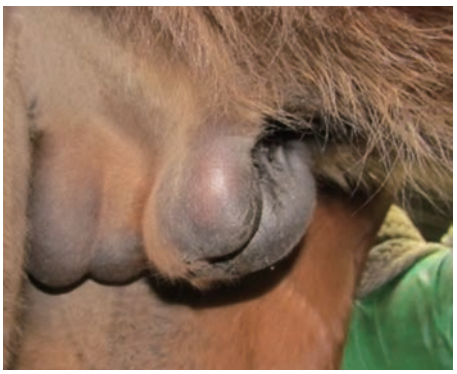


図５．発症馬に認められた陰茎包皮の浮腫

これらの症状とともに腹部超音波検査において腸粘膜の肥厚や低アルブミン血症（血清アルブミン濃度：<2.0g/dl）を伴う低蛋白血症（血清総タンパク質濃度：<5.0g/dl）が認められた場合にはローソニア感染症を疑います。低蛋白血症は、最も特徴的な症状の一つであり、血清総タンパク質濃度は血液から血清が分離できる施設であれば臨床屈折計（図6）を用いて簡単に測定できます。確定診断のためには、発症馬の糞便や血清を採取し、遺伝子検査（PCR，リアルタイムPCR）と抗体検査を実施します。また、ローソニア感染症には発症しやすい馬の月齢や季節があるため、これらの情報も診断には重要となります。

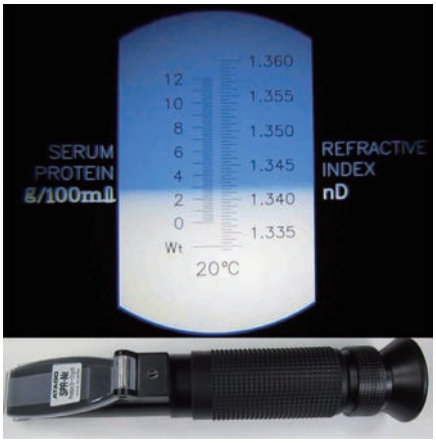


図６．臨床屈折計を用いた血清総蛋白質濃度の測定

治療

Liを排除するための抗菌薬治療と症状を緩和するための対症療法を実施します。抗菌薬治療としてはテトラサクリン系抗菌薬を2～3週間投与する方法が報告されています。その他にも、リファンピシンやアジスロマイシンの投与による治療法が報告されていますが、これらの抗菌薬による治療は副作用として腸炎を誘発する危険性があり、慎重な投与が必要です。Anthertonら（2006）はローソニア感染症の治療期間が28～40日（平均33.8日）と長期にわたることを報告していることから、治療よりも発症を予防することが本病の対策としてより重要と考えられます。対症療法としては、発症馬の症状に応じて消炎剤の投与や血漿輸液が行われます。

感染馬のほとんどは適切な治療によって快復します。発熱や元気消失などの症状は数日で回復しますが、低蛋白血症や発育遅延の影響は数週～数ヵ月間にわたることもあります。Frazerら（2008、2011）は、感染歴のある子馬の市場取引価格が同じ種牡馬から生まれた感染歴のない子馬と比較すると7割程度であった一方、生涯獲得賞金には差が認められなかったことも報告しています。

予防

予防は、ローソニア感染症による被害を軽減する最も有効な対策法です。しかし、広い放牧地を牧柵で囲むという軽種馬生産牧場の構造上、ネズミやアライグマなどの小型の野生動物とともに牧場内へ侵入するローソニア感染症を阻止することは容易ではありません。さらに、感染馬は、症状が現れる前から原因菌であるLiを糞便中に排出します。このため、たとえ感染が疑われる子馬を隔離したとしても環境中にはすでに菌が拡散しており、牧場内での感染の拡大を防ぐことは難しい状況にあります。このような特徴から、ローソニア感染症では、一般的な消毒や隔離といった衛生対策の効果には限界があると考えられます。

このような感染症に対してカギとなる対策はワクチンです。豚のローソニア感染症に対しては豚用弱毒生ワクチン「エンテリゾール®　イリアイティス（ベーリンガーインゲルハイムアニマルヘルスジャパン株式会社）」が国内で市販されています（図7）。このワクチンの馬のローソニア感染症に対する感染防御効果は実験的に証明されており、国内の軽種馬生産の現場でも使用されるようになってきました。

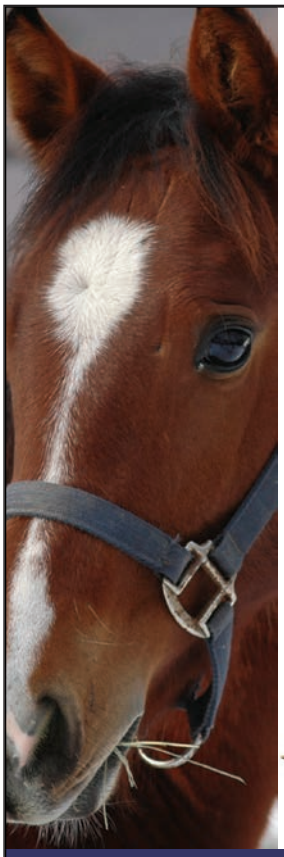
図7．エンテリゾール®　イリアイティス
（豚用弱毒生ワクチン）

豚用弱毒生ワクチンは、豚では経口または飲水によって投与されますが、馬ではより高い免疫力の獲得が期待できる「経直腸投与」が一般的に行われています（図8）。ローソニア感染症に感染しやすい3ヵ月齢以上の当歳馬に、30mlのワクチン液を30日以上の間隔を空けて2回、直腸内に投与します。発生が多くなる時期の1～2ヵ月前から投与を開始することが適切なタイミングと考えられています。

図8．ワクチンの経直腸投与

最後に

2010年頃から突如として軽種馬生産地に出現したローソニア感染症は、これまでに行われた調査によって、発生状況や感染源など様々な特徴があきらかとなってきました。感染対策のキーポイントとなる豚用弱毒生ワクチンは、馬用としては販売されておらず、投与する獣医師の責任のもと使用されています。現在、馬への適応拡大に向けた作業が進められており、馬用ワクチンとして承認されれば、ワクチンのさらなる普及によって馬のローソニア感染症対策が大きく前進することが期待されます。



EBMの理念　動物の医療を取り巻く環境は近年めざましい勢いで進歩しており、世界中で新しい医療技術や医療機器、医薬品および飼料の開発が行われています。
EBMトレーディングジャパン株式会社は先端医療のスペシャリストとして獣医療、特に馬に関する最新の医療製品や多様なサービスをお届けする体制の確立に努めるとともに、品質、安全、法令順守を最優先に考え、動物の医療現場のソリューションプロバイダーとして、皆様のお役に立てる企業を目指すことをお約束いたします。

Boehringer Ingelheim　ベーリンガーインゲルハイム アニマルヘルス ジャパン株式会社

ガストロガード®
動物用医薬品
馬用胃潰瘍予防治療剤
要指示医薬品　指定医薬品 使用基準

ハイオネート®
動物用医薬品
馬用非感染性関節炎治療薬

LMF HORSE FEEDS

LMFシリーズ（配合飼料）
SUPER SUPPLEMENT（繁殖・当歳～18カ月令 蛋白質21%）
SUPER SUPPLEMENT Hi-Pro（繁殖・当歳～18カ月令 粗蛋白質30%）
RACE（競走・育成馬　粗蛋白質13%）
RACE Hi-Pro（競走・育成馬　粗蛋白質16%）
PERFORMANCE CONCENTRATE（競走・育成馬 燕麦無 粗蛋白質12%）
SENIOR（高齢馬）

PHN PERFORMANCE HORSE NUTRITION　**EQUINE FIRSTシリーズ**
AMINOLYTE（アミノライト）電解質補給・分岐アミノ酸（BCAA）
FLEX（フレックス）関節のサポート
COOL CARE（クールケア）胃腸のサポート
FOUNDATION HOOF（ファンディション フーフ）蹄のサポート
PRG-P（リカバリージェルパウダー）筋肉のサポート
DIGEST Powder（ダイジェストパウダー）生菌製剤・プロ/プレバイオテック パウダー
DIGEST Paste（ダイジェストペースト）生菌製剤・プロ/プレバイオテック ペースト
B-RELAXED（ビーリラックス）馬の環境変化に

EBM Trading Japan KK
Evidence-based Biotechnology and Machinery

EBM トレーディング ジャパン 株式会社
本社　〒004-0052 北海道札幌市厚別区厚別中央2条5丁目3番31号 新札幌第一生命ビルディング2階
Tel.（011）827-5960　Fax.（011）827-5962　http://www.ebmtrading.com
関東支店・関西支店

社台ファーム

只今、騎乗スタッフを募集中です。
条件等は下記までお気軽にお問い合わせ下さい。
（担当：青田, 佐藤）

[社台ファーム]
〒069-1181　北海道千歳市東丘1288-140　TEL 0123-21-2311 FAX 0123-21-2576

5 競馬の箱馬車

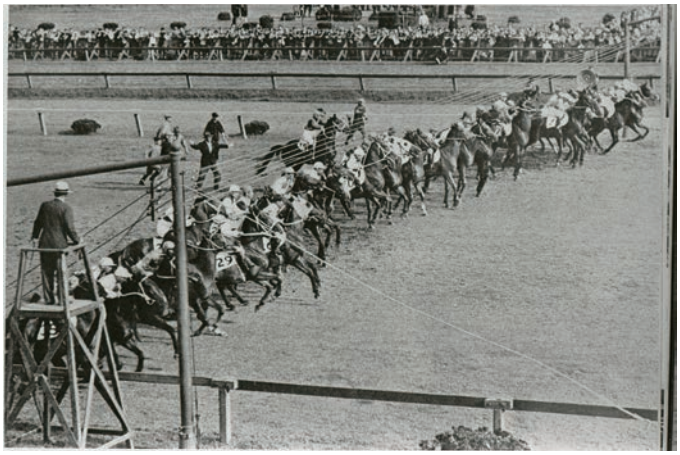
特別展「JRA70周年記念　タイムスリップ to 1954」

公益財団法人馬事文化財団　競馬博物館部　秋永　和彦

本年は、1954年（昭和29）に日本中央競馬会（ＪＲＡ：以降の本文では、1987年から使用されている略称「ＪＲＡ」に記載を統一しています）が創設されてから70年という節目にあたり、この70年間に日本の競馬は大きく変容してきました。今回は、現在とは大きく異なるＪＲＡが創設された頃の競馬の様子を紹介します。

競馬場の風景

競馬の様子は当然ながら今とは大きく違いました。当時の発馬機（スターティングゲート）はバリヤー式と呼ばれる、横に張ったロープを跳ね上げるタイプのものでした。この発馬機は明治末期から改良を重ねながら使用されてきましたが、全馬がいっせいにスタートすることはほとんどなく、突進や出遅れなどの問題がありました。現在のように1頭ごとに分かれた箱形（ゲート式）発馬機がＪＲＡで導入されたのは1960年（昭和35）のことでした。



バリヤー式発馬機（1953年日本ダービー）

現在見ることができない競走に、繋駕速歩（けいがそくほ）競走があります。これは騎手が乗った繋駕車（車輪のついた駕籠）を馬が牽いて行う競走で、速歩という歩法で行われるため４本の肢のうちどれかが地面についていないと失格となります。競走馬は速歩の得意なトロッター種（斜対歩）やペーサー種（側対歩）で行われていました。戦前の日本では荷物を引く軍馬育成のために奨励され、数多くの競走が実施されました。

また、平地および障害競走には、サラブレッドだけでなく、アラブ馬（正確にはアラブとサラブレッドの混血でアラブ血量が25％以上のアングロアラブ）による競走もありました。軍馬改良の役割が大きかった戦前の競馬において、サラブレッドは繊細かつひ弱で軍馬に向かないとして、より丈夫で戦場に適したアングロアラブの生産を政府が推奨するようになったのに伴い、レースも多く行われました。

繋駕速歩競走（1957年中京競馬場）

両競走ともに戦後は軍用としての需要はなくなりましたが、競走馬の頭数が少なかったためＪＲＡとなっても継続されました。しかし、サラブレッドの生産頭数が増加していくと繋駕速歩競走とアラブ限定競走は次第に減少し、繋駕速歩競走は1968年（昭和43）12月、アラブ限定競走は1995年（平成７）12月をもってＪＲＡから姿を消しました。

また、ＪＲＡの創設前後には、競走馬の輸入が多く見

られました。1937年（昭和12）制定の日本競馬会施行規程には「本会の競馬に出走することを得る馬は内国産に限る」と明記されていて外国産馬の出走は不可能だったうえ、種牡馬の輸入も日中戦争開戦により停止しており、戦後は国内の血統の偏りが懸念されるようになりました。1948年（昭和23）の「国営競馬実施規則」により外国産馬の出走が可能になり、戦争により国内の馬産も大打撃を受けていたことから、農林省（国営競馬）や地方競馬（特別区競馬組合、兵庫県競馬振興会）、馬主協会などがアメリカやオーストラリアから馬を輸入しました。この時に輸入されたサラブレッドは「米サラ」「豪サラ」などとも呼ばれました。ＪＲＡ創設後最初の天皇賞となった1954年（昭和29）の天皇賞（秋）を制したオパールオーキツト、1956年（昭和31）の天皇賞（秋）を制したミツドフアームは、ともに大井競馬がオーストラリアから輸入して地方競馬でデビューした後、中央競馬に移籍した馬です。

オパールオーキツト（第 30 回天皇賞・秋／ 1954 年）

馬券発売窓口の風景

馬券に関しては、70年間で特に大きく変わりました。現在は、単勝、複勝、枠連、馬連、馬単、ワイド、三連複、三連単、WIN 5の9種類が発売されていますが、70年前は単勝、複勝、連勝（枠単）、重勝（その競馬場の第1Ｒから第3Ｒまでの勝馬を当てる）の4種類しかありませんでした。

馬券の購入制限（１人につき1レース各券種1枚）は戦後に解除されましたが、馬券の券面金額が規定されていたため、多額の馬券を購入する場合は複数枚購入する必要があり、買い目で窓口が分かれていたため、複数の買い目の場合は複数の窓口を回る必要がありました。

1964 年（昭和 39）の馬券発売窓口（東京競馬場）

トータリゼーターシステムが導入された現在ではオッズがほぼリアルタイムで表示されますが、70年前には当然ながらそのようなシステムはありません。当時は、馬券発売が締め切られた後に買い目ごとの発売票数が手計算（そろばん）により集計されて場内に掲示される仕組みであり、発売締切後でなければどれが1番人気なのかはわかりませんでした。

1960 年（昭和 35）の馬券発売集計の様子（東京競馬場）

ＪＲＡ競馬博物館では、特別展「ＪＲＡ70周年記念タイムスリップ to 1954」を10月5日（土）から開催し、ＪＲＡ創設時と現在をさまざまな面で比較して、この70年間の日本競馬の発展を紹介いたします。東京競馬場にご来場の折には、ぜひご来館ください。

浅利英明調教師（ＢＴＣ第２２期修了生）から現役研修生に向けての講話レポート

公益財団法人 軽種馬育成調教センター 教育課 教官　組橋　春翔

はじめに

2024年７月25日、前年末にＪＲＡ調教師免許試験に合格された浅利英明調教師（ＢＴＣ第22期修了生）をお招きして第42期生へ向けて講話をしていただきました。

浅利調教師はＢＴＣ第22期生（2004-05年）に入講され、研修修了後は社台ファームに就職、ＪＲＡ競馬学校厩務員課程を経て、美浦ＴＣの栗田博憲厩舎、加藤征弘厩舎で調教助手として働き、ＢＴＣ研修生として５人目となるＪＲＡ調教師免許を取得されました。

今回の講話ではＢＴＣ研修生からの質問に答えていただく形でお話して頂きましたので一部を抜粋して紹介いたします。

研修生に向け、熱弁する浅利調教師

馬の取扱いと研修生時代について

Q. 馬に接する上で大事にしていることは何ですか?

A. 馬の細かい変化に気づくことです。馬は習慣で生きる動物なのでいつもと違う小さな変化に気づけるようにしています。例えば、朝に馬房に行った時、馬の立ち位置がいつもと違うとか、いつも顔を出すのに今日は顔を出さないとか、体調の不良を訴えているかもしれないと思って、小さな変化に気がつくように心掛けています。

Q. 馬に乗るときに心がけていることは何ですか?

A. 一番重要なのは人馬の安全です。高い能力を持っている馬でも人が油断して怪我をさせてしまえば競走馬として走れなくなるかもしれない。一瞬の油断でその馬の生涯が変わってしまう。人も怪我をして馬に乗れなくなるかもしれない。そういった面で人馬の安全は一番に大事にしています。

研修生一人ひとりの質問に対し、丁寧に受け答えする浅利利調教師

Q. 慌てず冷静に馬に乗るコツがあれば教えてください。

A. とにかく数を乗って経験を積むことで、怖さの上限が上がって余裕が出てきます。そうすれば精神的にも慌てずに騎乗できるようになるので心配しなくていいと思います。

研修生の騎乗訓練の様子も見ていただきました

Q. 上手くいかないときや気持ちが沈んでしまったときのモチベーションの保ち方を教えてください。

A. 私もいまだに乗り切れない馬がいます。うまく騎乗できたというほうが少ないかもしれません。できなくても落ち込まないことです(笑)。落ち込むより悔しいなって思って気持ちで負けないことが重要だと思います。

Q. 研修中にやっておけばよかったと後悔したことはありますか?

A. これから毎日の研修に飽きてくる時期があるかもしれません。そこで甘えてしまうと成長に差が出てしまう。就職した後はどの馬にも馬主さんがいて、値段がついているので自分の為だけの練習をすることはほぼできません。研修期間の1年間は、教育用馬たちは研修生の皆さんを育てるためにいるのでもっと練習させてもらえばよかったなと思います。

研修生時代の浅利調教師

第22期生集合写真（浦河競馬出場時）
浅利調教師は最前列左から2番目

調教師として

Q. 調教師としてどのような馬を育てていきたいですか?

A. もちろん強い馬は作っていきたいですけど、それだけではなく世間の人に競馬を知ってほしいという思いがあるので、アイドルホースとなるような世間に認知されるような馬を作れたらいいと思っています。

Q. 馬の仕事に携わる中でのやりがいは何ですか?

A. やっぱり競馬に勝った瞬間ですね。あとは自分で乗っていると勝てそうな感触が分かってきて、その自分の判断が合っていると嬉しいし、やりがいを感じます。

Q. 厩舎スタッフなどにはどんな人材を求めていますか?

A. まず一番は馬が好きということです。毎日馬に接していると、馬が言う事を聞かなかった時に感情的になりやすいですが、それを抑えることができて馬に優しい人。また真面目で責任感がある人。そして牧場で働くうえで重要になるのはコミュニケーション能力があり、協力的な人。自分一人では仕事は回りきらないので、スタッフみんなと協力できる心を持っている方がいいと思います。

おわりに

今回の講話では、研修生一人ひとりの質問に対し、浅利調教師からとても丁寧に、かつわかりやすく答えて頂きました。その受け答えから本当に馬のことを大切にして、馬に関わっていることが感じ取れました。その思いは研修生にも伝わったのではないかと思います。今回研修生の為に講話をいただいた浅利調教師の今後の活躍を心より祈念しております。

浅利調教師と第42期生の集合写真

研修生の課外研修や休日の過ごし方

公益財団法人 軽種馬育成調教センター 教育課 教官　立林　健介

４２期生が入講して早くも半年が経とうとしています。入講間もない頃は馬に触れる事すらおぼつかなかった研修生達も、毎日の馬とのやりとりの中で少しずつ作業や手入れにも慣れ、騎乗訓練では短い鐙での走路騎乗も含めた訓練に移行しています。また、厩舎作業や騎乗訓練に留まらず、学科や牧場見学等の課外研修で知識や経験を得ながら、研修前の生活とは全く違うであろうと思われる馬漬けの日々を過ごしています。

4月　浦河名所　オバケ桜にて記念撮影

さて、今回はそんな研修生の課外研修や休日の過ごし方を紹介したいと思います。これまでに北海道ならではの山菜取りから始まり、トレーニングセール見学やアポイ登山、馬装コンテスト表彰も兼ねて研修生ＯＢ・ＯＧとのＢＢＱ、牧場見学等様々な行事がありましたが、課外研修では研修生の性格や人柄が出るので面白く感じています。静内で昼食も兼ねての自由行動の際には、事前にネット注文して、到着後すぐに休憩スペースで食事をしている研修生がいるので、そんなに先を見据えて行動できるなら研修中もお願いします!!　と思ったり（笑）。何店も飲食店をまわっている研修生もいるので、体重管理は大丈夫なのかなと心の中で心配しています。さらに冷凍食品を両手一杯に抱えてバスに戻ってくる研修生もいて、バスだと移動に1時間近くかかるのに大丈夫なのかとこっそり見ています。因みに、研修生はバスの中では基本的には自由に過ごしていますが、私が引率者に含まれている場合は、前の方に座っている研修生は私に話しかけられるのであまり眠れません（笑）。研修生にとっては迷惑かもしれませんが、普段とは違う何気ない会話で研修生のことを知ることがあり、私にとっては大切な時間です。

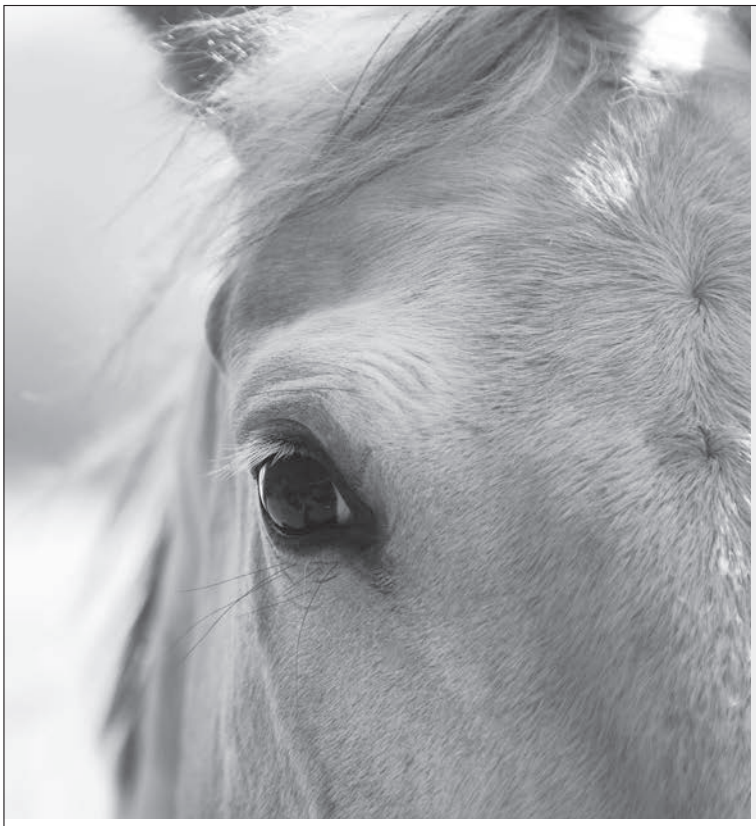
マイ自転車組で記念撮影

そして、休日には自転車で出かけたり、お菓子やごはんを作ったりと各自のリフレッシュ方法があるようです。自転車組はお祭りやイベントに出かけたり、近くにあるアエルのお風呂に行ったりするのが人気なようです。ＢＴＣにも貸出用の自転車がありますが、数名の研修生は自分の自転車を持っています。昨年の研修生には貸出用自転車（ギア無しのママチャリ）で、片道約５５キロある静内まで某ハンバーガーを食べに行った強者がいて驚いたのですが（汗をたくさんかいたのか、ポテトの塩がうすかったと小言を言っていたのも懐かしいです（笑））、今年の研修生は自転車のスペックも高く、更に遠くまで出かけている研修生もいるようです。

また、土日は各自で食事を準備しています。その中でも、刀禰君が作るスイーツには定評があり他の研修生にもふるまっているようです。私もお勧めしてもらったことがありますが、普段の刀禰君のおっちょこちょいな所を見ているとまだ食べる勇気が湧いてきません（笑）。

騎乗訓練、厩舎作業などの平日以外にもこのような休日を過ごしながら、１歩ずつ立派なホースマンを目指して日々精進しております。

作ったスイーツと刀禰君



エクエヌテクトERP

馬鼻肺炎生ワクチン

その他の馬用ワクチン・診断液

日生研日本脳炎TC不活化ワクチン
エクエヌテクトFLU
日生研日脳・馬ゲタ混合不活化ワクチン
エクエヌテクトJIT
日生研馬ロタウイルス病不活化ワクチン
破傷風トキソイド「日生研」
日生研精製伝貧ゲル沈抗原

NISSEIKEN 日生研株式会社

〒198-0024 東京都青梅市新町9丁目2221番地の1
TEL 0428-33-1009（営業部） URL https://www.jp-nisseiken.co.jp

馬術に関するトピックス満載

日本馬術連盟では、毎月１回　機関誌『馬術情報』を発行しています。
国内の主要競技会、日本選手の国内外での活躍、海外の情報、その他馬にかかわるトピックス満載です！

月刊
馬術情報
Japan Equestrian Federation Journal

JEF 公益社団法人 日本馬術連盟

〒104-0033　東京都中央区新川 2-6-16
TEL 03-3297-5611　FAX 03-3297-5617
https://www.equitation-japan.com

購入・購読のお申し込み方法

毎月１日発行　A4 サイズ／約48ページ

定　価	550 円（送料・消費税込）
年間購読	12 冊 5,500 円（送料・消費税込）

■お申し込み方法

ハガキ・FAX・ウェブサイトから、下記事項を明記のうえお申し込みください。
代金の入金確認後に発送いたします。

① お名前（ふりがな）
② 郵便番号
③ 住所
④ 電話番号
⑤ 下記のいずれかを明記してください
　・１冊のみ購入希望の場合は希望月
　・年間購読希望の場合は購読開始月

■お支払い方法

下記のいずれかの方法でお支払いいただけます。

◎銀行振込　：　三菱UFJ 銀行 本店
（普）1447629
公益社団法人（コウエキシャダンホウジン） 日本馬術連盟（ニホンバジュツレンメイ）

◎郵便振替　：　00150-2-31103
公益社団法人（コウエキシャダンホウジン） 日本馬術連盟（ニホンバジュツレンメイ）

◎現金書留　：　〒104-0033
東京都中央区新川 2-6-16
馬事畜産会館 6F
公益社団法人 日本馬術連盟
総務部『馬術情報』係

※個人情報は『馬術情報』発送の目的以外には使用いたしません。

GREEN CHANNEL を見るには？

スカパー！（BS234ch）、スカパー！プレミアム／光（688・689ch）、J:COM、eo光テレビほか、全国のケーブルテレビ局、ひかり TV、au ひかりからご覧いただけます。また、グリーンチャンネル Web（マルチ会員 1,000 円税別／スマホ会員 500 円税別）で、外出先でもお楽しみいただけます。

グリーンチャンネルの視聴方法・番組内容に関するお問い合わせ
または、お客様コール　03－5620－3344（10:00～17:00　年末年始・祝祭日は除く）

グリーンチャンネル　検索

日本ウマ科学会第 37 回学術集会のお知らせ

日本ウマ科学会第 37 回学術集会を、2024 年 11 月 25 日（月）～ 26 日（火）に KFC Hall & Rooms（東京都墨田区横網 1-6-1）において開催します。プログラムとして一般講演、優秀発表賞講演、臨床委員会企画招待講演、文化芸術系講演、ランチョンセミナー、企業展示等を予定しておりますが、状況により開催方法や内容を変更することがあります。最新情報は、日本ウマ科学会ホームページ（https://jses.jp）をご覧ください。

なお、日本ウマ科学会「認定馬臨床獣医師」認定のための第 5 回認定試験については、2024 年 11 月 26 日（火）に同会場で実施します。

★ BTC 調教場利用　JRA 重賞競走　優勝馬一覧（2024 年 6 月～ 8 月分）　関係者の皆様、おめでとうございます。

（中央競馬）
- サトノレーヴ　牡 5 歳　函館スプリント S　G Ⅲ（2024/06/09・函館）
- ピューロマジック　牝 3 歳　北九州記念　G Ⅲ（2024/06/30・小倉）
- ホッコーメヴィウス　騸 8 歳　新潟ジャンプ SJ・G Ⅲ（2024/07/27・新潟）
- リフレーミング　牡 6 歳　小倉記念　G Ⅲ（2024/08/11・中京）
- サトノレーヴ　牡 5 歳　キーンランドカップ　G Ⅲ（2024/08/25・札幌）

（地方競馬）
- キングズソード　牡 5 歳　帝王賞　Jpn Ⅰ（2024/06/26・大井）
- チカッパ　牡 3 歳　北海道スプリント C　Jpn Ⅲ（2024/08/15・門別）
- オーサムリザルト　牝 4 歳　ブリーダーズ GC　Jpn Ⅲ（2024/08/27・門別）

あ・と・が・き

★ パリ五輪では日本選手が大活躍でした。特に総合馬術競技の日本代表チームは銅メダルを獲得。1932 年のロス五輪金メダルのバロン西こと西竹一選手以来、実に 92 年ぶり、団体では初めてとなるメダル獲得でした。関係者の皆様おめでとうございます。（K. M.）

★ 今夏も全国的に猛暑で人馬共に体調管理等にご苦労された方々も多かったと思います。BTC 調教場内では、環境省発表の予測値による利用者への注意喚起、暑さ指数（WBGT）測定器の設置、馬体冷却用として一部滞在厩舎の洗い場開放などの暑熱対策を行いました。また、本年度の予定工事は屋内トラック馬場の砂入れ替え工事が終了し、現在、屋内直線馬場屋根防水工事が行われております。工期が今月中旬までとなっておりますので、引き続きご協力の程よろしくお願いいたします。（K. H.）

BTC ニュース　2024 年（4）　第 137 号

※ BTC ニュースに関するお問い合わせ、配送先変更・配送中止のご連絡は、下記にて受け付けております。また、BTC ニュースは BTC ホームページからもご覧いただけます。

発　行　日：令和 6 年 10 月 1 日

発　　行：公益財団法人　軽種馬育成調教センター　TEL 0146（28）1001 ㈹

FAX 0146（28）1003　　e-mail：kyoiku_fukyu@b-t-c.or.jp

〒 057-0171　北海道浦河郡浦河町字西舎 528

HP　BTCニュース

編集責任者：松尾　雅洋　　編集：小林　光紀　　制作・印刷：西谷印刷株式会社　〒 135-0022　東京都江東区三好 2-1-4

フランス製 PVC 馬場柵

人と馬にやさしい馬場柵をお届けします

安全性、経済性を追求した紫外線にも強い PVC 素材の馬場柵です

TÉKIDÉ

欧州と中東を中心に世界各地で40年以上の販売実績を持つフランスのＰＶＣ(ポリ塩化ビニル)馬場柵メーカー「エコファブ社（旧 Fornells 社)」の製品をご紹介します。

エコファブ社の馬場柵（TÉKIDÉ）は、凱旋門賞が行われるロンシャン競馬場でも採用されています。

JRAファシリティーズ株式会社

〒104-0032　東京都中央区八丁堀3丁目19番9号　ジオ八丁堀
TEL 03(6631)9007　FAX 03(6631)9017

JRA-VAN ×

JRA スマッピー投票 ピッ

JRA-VANで、スマッピー投票！

1ヶ月
無料お試し
実施中!
※はじめてのご利用の方に限ります。

JRA-VAN　スマッピー　検索

https://jra-van.jp/pr/qrbet/

詳細はこちら

※無料お試し期間でも通信料はかかります。※WIN5、海外競馬は非対応です。
※本サービスはJRAシステムサービス㈱が提供する機能で、JRAスマッピー投票サイトとは異なります。

JRAシステムサービス株式会社

競走馬のタイイングアップ（Tying-Up）ケアーサプリメント

アスカル

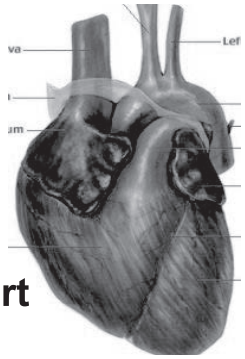
競走馬専用
900g(30g×30 袋)

Astaxanthin & L-Carnitine

天然型アスタキサンチン
（ヘマトコッカス藻由来）

L- カルニチン

Muscle



Heart

- ●品名:アスカル
- ●規格:30g/アルミ袋
- ●包装:900g(30g×30包)/化粧箱
- ●給与方法:馬1頭1日あたり本品60g(30g袋×2回/朝夕)を慣用飼料に混合して給与する。
- ●原材料名:米ぬか油かす、ヘマトコッカス藻抽出物(アスタキサンチン含有)、L-カルニチン。

※競走馬のスクミなど筋肉の障害、疾病の治療、改善を目的としてアスタキサンチンを含む飼料及びアスタキサンチンを馬へ与える特許は富士化学工業㈱が所有しております（特許第 3660244号）

The Astaxanthin of Choice AstaREAL® Safety, Evidence, Creativity

アスタリール®は富士化学工業㈱の商標です。

技術提携先
富士化学工業株式会社
FUJI CHEMICAL INDUSTRY CO.,LTD.

Carniking®

カルニキング®はスイスロンザ社の商標です。

Lonza

お客さま窓口
株式会社岩崎清七商店 競走馬事業部　TEL 03-3201-1666　FAX 03-3201-0028
〒100-6309 東京都千代田区丸の内2-4-1丸ビル9 階912 区　http://www.s-iwasaki.jp
［北海道］株式会社北海道ホースフィード　TEL 0146-32-3106
JRAファシリティーズ株式会社 飼糧課　美浦TEL 029-885-2161 栗東TEL 077-558-0319